一般社団法人日本消防服装･装備協会　第三者委員会　御中

製品の構造チェックシート

**「JFCE0010-A:2024防火服 A種（ガイドライン2022)」**

製品名：

□1 防火服は十分な長さの重なりのある上衣とズボンで構成された上・下型（セパレート型）とする。

□2　 防火服と活動服を組み合わせて防護性能を満たすものは、各々にラベルを表示し、組み合わせて着用することが必要な旨を明記する。

□3　 防火服の前あきの部分には、ファスナー等を取り付け、そのファスナー等を被うことができ、完全な耐炎、耐熱性を確保できる構造とし、簡単に外れないこと。

□4　再帰性反射材は最小面積0.13㎡、蛍光材料又は再帰反射と蛍光組合せ材は最小面積0.2㎡を下回らないこと。かつ、腕、足及び胴の各部分に一つ以上の帯をめぐらせること。

□5　上衣の袖には、リストレットを取り付ける等手首を保護する加工を施す。

□6　上衣の襟は、上衣に準ずる複合層を持った前面で開閉できる構造とし、襟は75mm以上とする。

□7　ポケット、袖口、肘、膝、肩など摩耗しやすい、又は負荷のかかる部分に使用される部材は、十分な耐炎性、耐熱性を有する。

□8　防火服の複合層に防水層、裏地が含まれる場合は、表地にしっかりと取付け、少なくとも上衣の襟足の縫い目まで達するとともに、かつ上衣の底部表地裾の縁から75mm以内、袖口の表地から25mm以内まで達すること。また、ズボンについては、腰上部表地の縁まで、裾部表地の縁から75mm以内まで達すること。

□9　表地を貫通する金物類は、複合層の最も内側の表面に露出してはならない。

□10 上衣又はズボンの外側にポケットが付いている場合は、水が浸入した場合に排水でき、ポケットを閉じた位置に固定でき、燃え落ちた破片等の侵入を防ぐ構造とする。

□11　防火服がインナー等複数の層により構成され、それらを合わせて使用することで既定

の性能を満たす場合には、その旨をそれぞれの層に明確に表示したラベルを付けるか、分離できないようにする。

　　　　　　　　　　　　　 （日　付）　　　　　 年　　　月　　　日

（会社名）

印

一般社団法人日本消防服装･装備協会　第三者委員会　御中

製品の構造チェックシート

**「JFCE0010-A2:2024防火服A2種（ガイドライン2022※活動服組合せ）」**

製品名：

□1 防火服は十分な長さの重なりのある上衣とズボンで構成された上・下型（セパレート型）とする。

□2　 防火服と活動服を組み合わせて防護性能を満たすものは、各々にラベルを表示し、組み合わせて着用することが必要な旨を明記する。

□3　 防火服の前あきの部分には、ファスナー等を取り付け、そのファスナー等を被うことができ、完全な耐炎、耐熱性を確保できる構造とし、簡単に外れないこと。

□4　再帰性反射材は最小面積0.13㎡、蛍光材料又は再帰反射と蛍光組合せ材は最小面積0.2㎡を下回らないこと。かつ、腕、足及び胴の各部分に一つ以上の帯をめぐらせること。

□5　上衣の袖には、リストレットを取り付ける等手首を保護する加工を施す。

□6　上衣の襟は、上衣に準ずる複合層を持った前面で開閉できる構造とし、襟は75mm以上とする。

□7　ポケット、袖口、肘、膝、肩など摩耗しやすい、又は負荷のかかる部分に使用される部材は、十分な耐炎性、耐熱性を有する。

□8　防火服の複合層に防水層、裏地が含まれる場合は、表地にしっかりと取付け、少なくとも上衣の襟足の縫い目まで達するとともに、かつ上衣の底部表地裾の縁から75mm以内、袖口の表地から25mm以内まで達すること。また、ズボンについては、腰上部表地の縁まで、裾部表地の縁から75mm以内まで達すること。

□9　表地を貫通する金物類は、複合層の最も内側の表面に露出してはならない。

□10 上衣又はズボンの外側にポケットが付いている場合は、水が浸入した場合に排水でき、ポケットを閉じた位置に固定でき、燃え落ちた破片等の侵入を防ぐ構造とする。

□11　防火服がインナー等複数の層により構成され、それらを合わせて使用することで既定の性能を満たす場合には、その旨をそれぞれの層に明確に表示したラベルを付けるか、分離できないようにする。

（日　付）　　　　　 年　　　月　　　日

（会社名）

印

一般社団法人日本消防服装･装備協会　第三者委員会　御中

製品の構造チェックシート

**「JFCE0010-AA:2024防火服AA種（ISO11999-3タイプ２）」**

製品名：

□1 防火服は十分な長さの重なりのある上衣とズボンで構成された上・下型（セパレート型）とする。

□2　 防火服と活動服を組み合わせて防護性能を満たすものは、各々にラベルを表示し、組み合わせて着用することが必要な旨を明記する。

□3　 防火服の前あきの部分には、ファスナー等を取り付け、そのファスナー等を被うことができ、完全な耐炎、耐熱性を確保できる構造とし、簡単に外れないこと。

□4　再帰性反射材は最小面積0.13㎡、蛍光材料又は再帰反射と蛍光組合せ材は最小面積0.2㎡を下回らないこと。かつ、腕、足及び胴の各部分に一つ以上の帯をめぐらせること。

□5　上衣の袖には、リストレットを取り付ける等手首を保護する加工を施す。

□6　上衣の襟は、上衣に準ずる複合層を持った前面で開閉できる構造とし、襟は75mm以上とする。

□7　ポケット、袖口、肘、膝、肩など摩耗しやすい、又は負荷のかかる部分に使用される部材は、十分な耐炎性、耐熱性を有する。

□8　防火服の複合層に防水層、裏地が含まれる場合は、表地にしっかりと取付け、少なくとも上衣の襟足の縫い目まで達するとともに、かつ上衣の底部表地裾の縁から75mm以内、袖口の表地から25mm以内まで達すること。また、ズボンについては、腰上部表地の縁まで、裾部表地の縁から75mm以内まで達すること。

□9　表地を貫通する金物類は、複合層の最も内側の表面に露出してはならない。

□10 上衣又はズボンの外側にポケットが付いている場合は、水が浸入した場合に排水でき、ポケットを閉じた位置に固定でき、燃え落ちた破片等の侵入を防ぐ構造とする。

□11　防火服がインナー等複数の層により構成され、それらを合わせて使用することで既定の性能を満たす場合には、その旨をそれぞれの層に明確に表示したラベルを付けるか、分離できないようにする。

（日　付）　　　　　 年　　　月　　　日

（会社名）

印

一般社団法人日本消防服装･装備協会　第三者委員会　御中

製品の構造チェックシート

**「JFCE0010-B:2024防火服B種（ISO11613）」**

製品名：

□1 防火服は十分な長さの重なりのある上衣とズボンで構成された上・下型（セパレート型）とする。

□2　 防火服と活動服を組み合わせて防護性能を満たすものは、各々にラベルを表示し、組み合わせて着用することが必要な旨を明記する。

□3　 防火服の前あきの部分には、ファスナー等を取り付け、そのファスナー等を被うことができ、完全な耐炎、耐熱性を確保できる構造とし、簡単に外れないこと。

□4　再帰性反射材は最小面積0.13㎡、蛍光材料又は再帰反射と蛍光組合せ材は最小面積0.2㎡を下回らないこと。かつ、腕、足及び胴の各部分に一つ以上の帯をめぐらせること。

□5　上衣の袖には、リストレットを取り付ける等手首を保護する加工を施す。

□6　上衣の襟は、上衣に準ずる複合層を持った前面で開閉できる構造とし、襟は75mm以上とする。

□7　ポケット、袖口、肘、膝、肩など摩耗しやすい、又は負荷のかかる部分に使用される部材は、十分な耐炎性、耐熱性を有する。

□8　防火服の複合層に防水層、裏地が含まれる場合は、表地にしっかりと取付け、少なくとも上衣の襟足の縫い目まで達するとともに、かつ上衣の底部表地裾の縁から75mm以内、袖口の表地から25mm以内まで達すること。また、ズボンについては、腰上部表地の縁まで、裾部表地の縁から75mm以内まで達すること。

□9　表地を貫通する金物類は、複合層の最も内側の表面に露出してはならない。

□10 上衣又はズボンの外側にポケットが付いている場合は、水が浸入した場合に排水でき、ポケットを閉じた位置に固定でき、燃え落ちた破片等の侵入を防ぐ構造とする。

□11　防火服がインナー等複数の層により構成され、それらを合わせて使用することで既定の性能を満たす場合には、その旨をそれぞれの層に明確に表示したラベルを付けるか、分離できないようにする。

（日　付）　　　　　 年　　　月　　　日

（会社名）

印

一般社団法人日本消防服装･装備協会　第三者委員会　御中

製品の構造チェックシート

**「JFCE0030-A:2024防火手袋A種（ガイドライン2022）」**

製品名：

□1　耐炎性、耐熱性、機械的強度を有する生地で構成され、複数層の構造となっている。

□2　手掌側は、牛革等で滑り止めを施す。

□3　指先や親指の付け根部分は、牛革等で補強を施す。

□4　防火手袋を構成する複合層には、防水層を含む。

□5　防火手袋は、手首を超えて25mm以上円筒状に伸びること。

□6　防火手袋には、手首部からの火炎や熱の進入を防ぐと共に、消火用水の浸入を軽減するために、リストレット又はカフス（50mm以上）を設ける。

（日　付）　　　　　 年　　　月　　　日

（会社名）

印

一般社団法人日本消防服装･装備協会　第三者委員会　御中

製品の構造チェックシート

**「JFCE0030-B:2024防火手袋B種（後方支援用）」**

製品名：

□1　耐炎性、耐熱性、機械的強度を有する生地で構成され、複数層の構造となっている。

□2　手掌側は、牛革等で滑り止めを施す。

□3　指先や親指の付け根部分は、牛革等で補強を施す。

□4　防火手袋を構成する複合層には、防水層を含む。

□5　防火手袋は、手首を超えて25mm以上円筒状に伸びること。

□6　防火手袋には、手首部からの火炎や熱の進入を防ぐと共に、消火用水の浸入を軽減するために、リストレット又はカフス（50mm以上）を設ける。

（日　付）　　　　　 年　　　月　　　日

（会社名）

印